

築上町歴史散歩

築上町教育委員会文化財保護係 TEL 0930-52-3771
〒829-0106 福岡県築上郡築上町大字船迫1342-22

Chikujo Town History walk Vol.4

ウェブサイト [築上町歴史散歩](#) [検索](#)

⑤窯業関係者の墓 堂がえり古墳群

堂がえり古墳群は、昭和50年(1975)に船迫史跡調査保存会の現地踏査で存在が明らかになり、昭和52年、築上西高校社会部が円墳2基から成る群集墳であると報告しました。(『紡錘車第4号』)

平成14年(2002)に町教育委員会による発掘調査が行われ、直径10m前後のドーム形の円墳4基が検出されました。

遺体が埋葬されたのは横穴式石室で、いずれも南側に向けて開口し、7世紀中頃～後半に埋葬されたと考えられます。どの古墳も盗掘されていますが、4号墳から金銅製耳環(イヤリング)や須恵器の完形品が出土しました。窯道具などは発見されていませんが、窯操作当時は堂がえり遺跡を挟んで対岸に堂がえり3・4号窯跡(6世紀末～7世紀初に須恵器を焼き、7世紀後半に瓦を焼く)を見通せたことから、須恵器や瓦を生産した工人の指導者階級の墓であると推定されます。



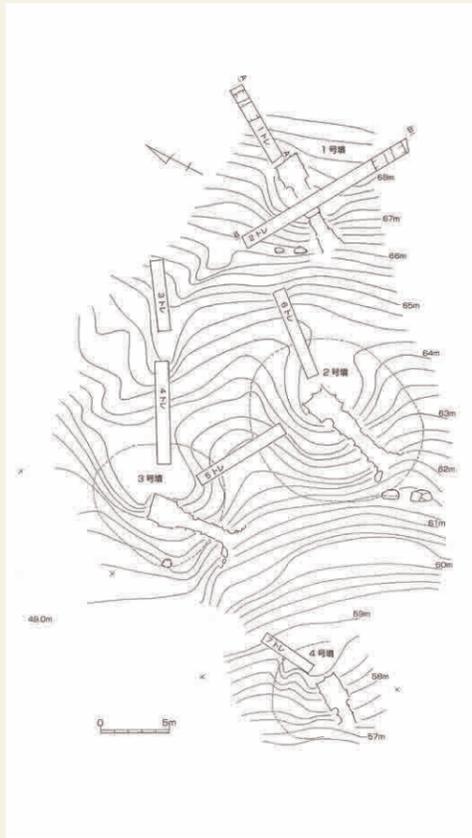
堂がえり2号墳



堂がえり3号墳



堂がえり4号墳



堂がえり古墳群 配置図
(すべて円墳。2号墳は複室/他は単室)
複室: 遺体を安置する玄室と副葬品等を安置する前室から成る。単室は玄室のみ。

国指定史跡 船迫窯跡 — 古代焼き物の里を探访する

粘土が採掘でき、山の強固な地盤は窯造りに適していました

船迫窯跡は、周防灘に面した城井川西岸の標高40～100mの丘陵先端部にあり、茶臼山東窯跡、堂がえり窯跡、堂がえり遺跡、宇土窯跡の四支群からなる古代の窯業遺跡です。

周囲は小さな谷と丘陵が複雑に入り組んだ地形で、谷部分の低湿地や平地層では焼き物に適した粘土が採掘できました。

須恵器から瓦生産へ 窯業の歴史をたどることができます

古くは6世紀後半の古墳時代に須恵器(灰色の硬い焼き物)を作り始め、7世紀中頃になると古代寺院、上坂廃寺(みやこ町)の屋根を飾る鴟尾や瓦を作るようになりました。

瓦作りが見える! 工房と窯跡が一体として残る貴重な遺跡です

奈良時代には豊前国分寺(みやこ町)の屋根瓦を生産するため、長さ30m、幅11.5mの巨大な工房建物が建てられました。

渡来人が窯業を伝え、その生産に関与しました

船迫窯跡がある豊前国は大陸に近く、瀬戸内海を介した交通の要衝地で、古くから朝鮮半島からの渡来系の人々が多くいた地域です。

穴窯(原始的な登窯)による窯業は渡来人が伝えたものでしょう。

特に660年、朝鮮半島の「百濟」滅亡後、日本列島に多数渡来した百濟人の工人が百濟系の単弁八葉蓮華文軒丸瓦や鴟尾などの製作に関与したと考えられます。

1999年1月28日指定
福岡県築上郡築上町大字船迫(指定面積41,432㎡)



上坂廃寺の屋根の大棟を飾る鴟尾(堂がえり窯跡出土)
鴟尾には魚のひれや鳥の羽毛の装飾が施されます。ひれの先端がのこぎり歯状に巡り、縦帯に単弁四葉蓮華文が見られ、朝鮮半島「百濟」工人の関与が窺えます。
(写真:復元レプリカ)

船迫窯跡公園 ～自然と史跡が調和した OPEN AIR MUSEUM～

体験学習館では船迫窯跡や町内の遺跡で発掘された遺物を常設展示し、年に数回の特別展も開催しています。体験教室には電気窯やロク口を備え、陶芸体験ができます。園内では古代の勾玉づくり、昆虫採集、凧あげ、自然観察が楽しめます。園内の遊歩道はウォーキングに最適です。森林浴をしながら、健康づくりに歩いてみませんか?



陶芸体験



大型工房建物で勾玉づくり



昆虫採集



凧あげ(谷地形で良い風が吹きます。)



窯跡展示施設

堂がえり2号窯跡の実物を見学できます。

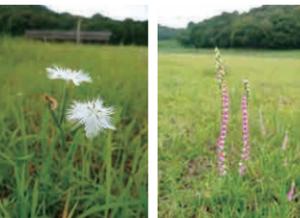


船迫窯跡公園に飛来したコウノトリ

コウノトリは国の特別天然記念物です。



湿地の水生生物



ナデシコやネジバナが咲く

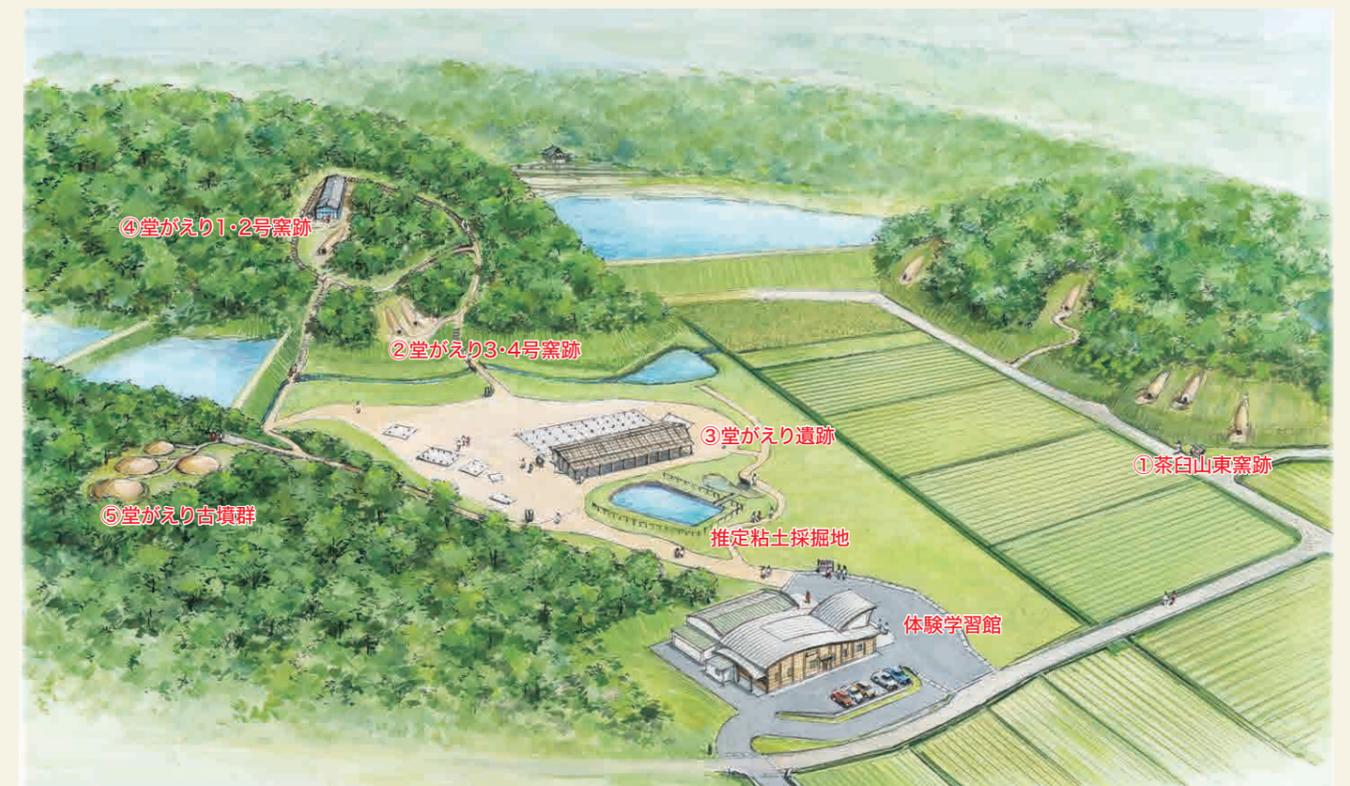
多目的広場ではピクニックも楽しめます。

船迫窯跡公園

(開園時間: 9時～17時 / 月曜日休園/入園無料/ただし体験教室での陶芸体験などは有料)
〒829-0106 福岡県築上郡築上町大字船迫1342-22
☎0930-52-3771 (FAX兼) Eメール kamaato@lep.bbq.jp

築上町歴史散歩ウェブサイト

鴟尾の3Dモデルもご覧いただけます。



史跡船迫窯跡 鳥観図(令和5年3月制作)

① 須恵器と初期瓦を焼いた 茶臼山東窯跡

茶臼山の東側斜面裾野に5基の窯跡が検出されました。発掘調査はすべて焚口周辺のみで焼成部分は山の斜面に続きます。

茶臼山東1〜3号・5号窯跡は船迫窯跡で最も古い6世紀後半の須恵器を焼いた全長10m前後のトンネル状の穴窯で、窯下方の破損品などの捨て場から巨大な水甕や壺、碗などが多量に出土しました。また飯蛸壺、勾玉、紡錘車などの特殊品のほか、皮袋形瓶、双耳付壺、取手付碗など朝鮮半島の影響を受けた製品も出土しました。

低湿地の水田の下には良質の灰色粘土が堆積し、粘土採掘跡と思われる複雑に掘り込まれた穴が数多く発見されました。

茶臼山の東側斜面中央部の茶臼山東4号窯跡は、構造は他の窯と同じですが、7世紀中頃に須恵器と瓦の両方を焼きました。平瓦は小型で薄く、布を被せた桶状の型に粘土紐を巻いて叩き伸ばし、土管状の円筒形を作り四分割する技法で、丸瓦も同様に作られます。

全国でも初期瓦と呼ばれる古いもので、同時期の瓦窯として近隣では大野城市の牛頸窯跡群の神ノ前2号窯跡、月ノ浦1号窯跡、大浦2号窯跡、大分県中津市の踊ヶ迫窯跡などがあります。



甕の破片や飯蛸壺の出土状況

茶臼山東4号窯跡全景と焚口出土の須恵器と初期瓦



茶臼山東1〜3号窯跡（上が窯跡、手前下は粘土採掘跡）



茶臼山東窯跡(想像図)

② 須恵器窯を再利用した瓦窯 堂がえり3号・4号窯跡

堂がえりの山林北側斜面の裾野に2基の窯跡が並んで発見されました。堂がえり3号・4号窯跡は6世紀末〜7世紀初めに須恵器を焼いた後、7世紀後半に窯跡を再利用して瓦を焼きました。その際、床面に並べた瓦がずり落ちないように洗濯板のような浅い溝を削り出しました。これは堂がえり2号窯跡のような階段式窯の前段階で、瓦窯の形態変遷がわかり大変貴重です。同様の例に春日市のウトグチ瓦窯があります。

出土した瓦は須恵器のように硬く焼き締まり、平瓦は布を被せた桶に粘土を巻いて円筒形を作り、四分割して製作しました。丸瓦は細い丸棒を簾状に紐で綴じ合わせた円筒形に粘土を巻く技法が見られます。なお、これら瓦の供給先は現在(令和7年3月)も不明です。



堂がえり4号窯跡全景

洗濯板のような浅い溝は瓦が落ちない工夫です

豊前国分寺の補修瓦を焼いた 宇土窯跡

昭和14年(1939)に築上史談会(代表 岡為造)が一部を発掘しました。平成6年(1994)に圃場整備事業に先立ち発掘調査が行われ、1基が確認されました。

宇土窯跡は全長5.5m、最大幅1.4mのやや小型の窯で、9世紀前半に豊前国分寺の補修瓦を焼きました。平瓦の表面には粘土を叩いた板に付けられた縄目の文様があります。

なお、発掘調査後に圃場整備のため、消滅しました。



③ 瓦製作工房 堂がえり遺跡

堂がえり遺跡は、船迫窯跡の中央部の平地にあり、8世紀中頃の巨大な掘立柱建物跡2棟を中心として豊前国分寺の瓦を製作しました。1棟の規模は10間×4間(長さ30m、幅11.5m)と巨大ですが、柱穴は直径12cm前後と小さく、短い期間に大量の瓦を製作し、乾燥するための仮設的な建物と考えられます。北側の建物の一部は高床構造となっていて、瓦を製作した場所と考えられます。このような大型瓦工房建物跡は、平城宮の瓦を生産した市坂瓦窯工房跡(上人ヶ平遺跡:京都市木津川市)に次いで全国2例目で大変貴重な遺跡です。

また、これ以前の7世紀代の粘土溜めの穴や瓦の祭祀跡、竪穴住居跡も発見され、この場所が7世紀から8世紀の長い期間、須恵器や瓦を製作し窯に運んだ焼き物工場の拠点だったことがわかります。



祭祀跡(簡易な建物で窯作業前の祭祀を行った。ミニチュア瓦と円盤が出土。火を焚いた痕跡。)



竪穴住居跡と粘土溜り

7世紀代の須恵器と粘土溜り

④ 古代寺院の瓦を焼いた 堂がえり1号・2号窯跡

堂がえり1号2号窯跡は、工房建物南側山林の尾根近くにあり、窯の耐久性を重視し、地盤の良い場所を選んで操業しました。

1号窯跡は全長8mのトンネル状の穴窯で、焚口周辺と最上部の煙出しのみ発掘調査しました。

2号窯跡は1号窯跡のすぐ上にあり、全長10m、幅1.0〜1.4m、天井高は2mもあり、床面は12段の階段状になります。2号窯跡は7世紀後半に上坂廃寺(みやこ町)の瓦を焼いた後、8世紀中頃に豊前国分寺の瓦を焼きました。上坂廃寺用の瓦は朝鮮半島「百濟」の影響の強い蓮華文の軒丸瓦と、また四葉蓮華文や唐草文の鴟尾があり、大変貴重です。

一方、豊前国分寺用の蓮華文軒丸瓦は弥勒寺(宇佐宮の神宮寺)の瓦をもとに作られたもので、唐草文様の軒平瓦も宇佐地方で多く使われる法隆寺系の文様です。さらに鬼瓦は大宰府政庁跡出土品と同じ范型で作られます。このことから豊前国分寺造営に宇佐神宮と大宰府政庁が大きく関与したことがわかります。



豊前国分寺用の鬼瓦(大宰府式鬼瓦)・軒丸瓦(百濟系単弁八葉蓮華文軒丸瓦)・軒平瓦(法隆寺系忍冬唐草文軒平瓦)



発掘された大型工房建物跡の柱穴群



大型工房建物と瓦製作の様子(想像)



粘土採掘作業(想像)



竪穴住居での生活(想像)



堂がえり2号窯跡(床面が12段の階段状)と想像図